

鳥取市歴史博物館「やまびこ館」

しとり だんこう
倭文6号墳の短甲

馬具や武器などが出土した倭文6号墳の短甲（昔のよろい）です。



てんじしつ
展示室では出土

状況のように横倒しで展示しており、中にはかぶと てつぞく（鉄製の矢じり）の束が納められています。倭文は千代川を使った交通の重要な場所、この地をおさ つか 治めた有力者のお墓に納められたものだと考えられています。

鳥取市因幡万葉歴史館

らんしぼんまんようしゅう ぶくせい
藍紙本万葉集(複製)

「藍紙本万葉集」という約1000年前のまんようしゅうこしやほん万葉集古写本の複製です。



古い写本はいくつか種類があり、この「藍紙本」はあいろのきれいな紙に万葉集の歌が書かれています。このような紙は、1000年前はたいへん特別なものでした。当時の人は万葉集を、日本の心を歌にしたものと考えて、とても大切にしていました。この写本からはそのことがうかがえます。

仁風閣・宝扇庵

しちゆう がいばん
支柱のない/らせん階段

鳥取城跡にある仁風閣は「鳥取市の迎賓館」として今から114年前の明治時代に建てられたものです。



国の重要文化財になっている仁風閣の宝物は「支柱のない/らせん階段」で、日本でここにしかないと言われ、誰もが愛する大切な場所になっています。

鳥取市埋蔵文化財センター

まつばら せいひがき
松原1号墓ガラス製首飾り

2010年のほつくつちようき発掘調査で出土したやよい じだい弥生時代後期(およ



そ1900年前)のガラス製首飾り。溶けて取り上げできない7個のまがたま勾玉を含め計19個の勾玉を、小玉2ないし3個をはさみ配置しています。

鳥取市歴史博物館「やまびこ館」常設展でご覧いただけます。

鳥取市青谷上寺地遺跡展示館

かべんたがつき
花弁高杯

青谷上寺地遺跡から出土した今から1900年くらい前の木の器。飾耳がついたお皿の下に脚がつくもので、お皿の裏がわには花びらのような文様が浮き彫りされ、脚には縦長の透かし孔がたくさん彫り込まれています。全体をあざやかな赤色に塗り、ひときわ華やかな一品です。超高級な贈りものとして日本海沿岸各地との交流に使われたのかもしれませんがね。



(写真提供：鳥取県とっとり弥生の王国推進課)

鳥取市あおや郷土館

なつとまり あまりよう
「400年の歴史 夏泊の海女漁」コーナー

子どもたちに大人気のコーナーです。約60年前の夏泊港や海女さんたちの写真、実際に海女さんが海に潜って貝を獲る様子の映像をモニターに映しています。



また床には海の中の映像が投影され、足で床を踏むと水が揺れたり、泳ぐ魚が逃げたり！時々海女さんも登場しますよ！

鳥取市あおや和紙工房

わし
和紙のオーロラ

あおや和紙工房へ「ようこそ。ようこそ」みなさんが和紙工房へいらっしゃると正面入ってすぐ目にとまるのが「和紙のオーロラ」です。



こうぞ せんい 楮の繊維を巻き付けた筒が45本、和紙で作ったまん丸な玉とサイコロのような真四角な照明器具が5個ずつ高い天井から下がっています。どこからか心地よい音楽が流れ、和紙の筒の中を七色の光が駆け抜けていきます。ほのかで夢のような光が早くなったり、遅くなったり。

あおや和紙工房のシンボルである「和紙のオーロラ」でみなさんをお迎えします。

城下町とっとり交流館 高砂屋

まつとうどけい
明治時代の骨重時計

高砂屋1階民芸品売場に大きなはしらどけい柱時計があります。この時計は明治時代の時計と言われ、今から約130年前の貴重な時計で、現在もせいかく正確に動いています。



高さ1m60cmもあり、もじばん文字盤の大きさは直径46cm。数年に一度、老舗の時計屋さんに分解掃除をしてもらいます。毎日、時計のネジを巻き分銅を引き上げて、大切にしています。